

《 共に育ち学びあうための相談会・2022夏 》

「障害があっても普通の子」で 共にまなび、共にすすむ

ダウン症の健心さんは、地域の学校でみんなと共に過ごし、だれもが願う普通高校に入学し、無事に今年3月に卒業しました（都立第一商業高校・ビジネス科）。高校が一番楽しいと話しています。クラスメイトからは「ガッシー」と呼ばれて親しまれていました。

障害があってもみんなと一緒に育ち学んできた子育ての体験をお聞きし、就学・進学を考える参考にしたり、悩みなど相談できたらと思います。

また、普通学級で学べるよう千葉や東京で活動されてきたようすなどもお聞きして、私たちの今後の活動についても考えていきます。

これから就学・進学や在学中の方、また、地域で活動されている方など、どなたでもご参加ください。

2022年7月10日(日)

1時30分～4時30分

資料代500円

岩槻駅東口コミュニティセンター

(岩槻駅東口すぐ ☎048-758-6500)

1階にカレー屋があります

5階 多目的ルームC

駐車場:市営岩槻駅東口公共駐車場(有料)

岩槻駅:東武アーバンパークライン(野田線)

大宮駅から5駅目

～ プ ロ グ ラ ム ～

・五十嵐玉枝さんのお話

「障害があっても普通の子」という思いが強くなっていく子育て体験や、一緒に学べるよう取り組んでいる活動など多方面のお話をさせていただきます

- ・参加者からの相談
- ・埼玉の現状や活動の報告

終了後(または休憩時間)個別相談もできます。

＜五十嵐玉枝さんのプロフィール＞

「世田谷区共に生きる会」、『「障害児・者」の高校進学を実現する連絡協議会」などの代表。「障害児を普通学校へ・全国連絡会」の運営委員。

「共に育つ教育を進める千葉県連絡会」の代表も務めた。(2010年)

ズーム参加できます(希望される方はメールを)

＜主催＞ みんな一緒に・埼玉連絡会 mail: donokomo1987@yahoo.co.jp

連絡先: 048-942-7543 (竹迫) 048-839-3234 (関)

＜共催＞ 一社・埼玉障害者自立生活協会/埼玉障害者市民ネットワーク/どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会 TOKOどの子も地域の学校へ! 公立高校へ! 東部地区懇談会/誰もが共に生きる地域をめざすぺんぎん村(浦和) さやまのペンギン村/所沢・教育と福祉を問い直す会/坂戸市障害者福祉市民ネットワーク

都立高校を卒業

東京都 五十嵐玉枝

長男・健心はダウン症 2,300 g で生まれた小さな男の子、顔が私の拳ぐらいしかありませんでした。心臓に穴が二つも開いていてとても弱々しい乳児でした。心臓に穴が開いているので、呼吸をすることさえ大変そうです。母乳を吸う力すら無く、哺乳瓶の乳首に針で大きく穴を開け、健心がミルクを吸わなくても口に入るように手を加えました。心臓手術が出来るように体重を増やすことと医師から言われ、一生懸命に育てるだけで精一杯で、将来のことなど考える余裕は当時の私にありませんでした。主人は将来起こりうる問題を悲観的に捉え暗い顔をしていました。そんな主人に、私は、「私が立派に育ててみせる」と言ったことを今でもはっきりと覚えています。生後四ヶ月で心臓手術をして、術後はミルクをたくさん飲めるようになって、すくすくと育ちました。体質的に風邪はとても引きやすく、耳鼻科と眼科にはよく行きました。歩き始めたのは 3 才 1 ヶ月、身体がうまく使えず、運動能力が低く、歩くことさえも苦手です。話はできますが滑舌が悪く聞き取りにくいです。でも、良いところがいっぱいあって、優しくて、明るい青年に育ちました。主人が「けんしん～一緒に寝ようよ～」と甘えると、「大人なんだから一人で寝なさい!」と主人を諭すしっかりものです(笑)

ダウン症とは、どんな子に育つのか全く想像できませんでしたが、たくさんの人に出会い、先輩 お母さん達の助言頂きながら、どう育てるか、夫婦で考えてきました。就学を前に、「障害児は特別支援教育」その子にあった学びの場と言われ、健心は特別支援級が良いだろうと、千葉市地域で生きる会と出会う前まではそう思っていました。その後は、目から鱗が落ちるように、障害は特別なことではないことに気づき、障害があっても普通に生きる大切さを学びました。私の知らない世界を教えてくれた健心に感謝です。私達夫婦のもとに生まれてきてくれてありがとうと心から思えます。

健常な子ども達の前から障害のある子を消し去るような特別支援教育があること自体、社会の不幸だと思います。世界はインクルーシブ教育、共に育つ教育へと進んでいます。日本は障害者権利条約を批准し、国内法が整備され、障害者差別解消法が制定されても人々の意識はそうそうには変わりません。障害のあるなしに関わらず一緒に過ごす事でお互いを知りお互いを受け入れるわけで、触れ合ったこともない人から何かを知る事は至難の業です。将来、障害者差別のない社会、共生社会を目指すには、学び合う学校が変わらないといけない。障害のある子が普通に普通学級に入学し、学校での工夫や配慮を受けることで、誰もが楽に過ごせる環境に変わると思います。となれば、近い将来、増え続ける学校に行けない子ども達、行きづらさを抱えている子ども達の数が減っていくと思います。8 年前から増え続けて学校に行けない子ども達が 20 万人だそうです。なぜ、そんなにも学校に行けない子が増えてしまったのでしょうか？ 私の身近にも学校に行けなくなってしまった子ども達があります。私が知るその子達は、やさしく、真面目な子ども達です。生活環境にも問題がありません。苦しい思いをしている子ども達をどうやって救えるのか、学校はもっと考えるべきだと思います。近年、不登校になってしまった生徒のための高校がいろいろと作られています。通信校、特例校、チャレンジ校、フリースクール・・・受け入れる学校がある事は悪いことではありませんが、受け皿だけでは根本的な問題の解決にはならない。学校に行けない子ども達の問題は子ども達自身にあるのではなく、学校にあるのではないのでしょうか。

・・・・この続きは、学習会の資料として配布します。